

# 高齢者におけるCR（チャイルドレジスタント）包装のユーザビリティ評価 子どもの誤飲事故防止と高齢者の利便性の両立に向けた開閉・アンケート調査結果

## 背景と調査アプローチ



CR機能：子どもによる事故防止機能

背景：CR包装は子どもの誤飲を防ぐ一方、成人と小児の「手指の力・サイズ・識字能力」の差を利用するため、高齢者の服薬率低下リスクが懸念される。

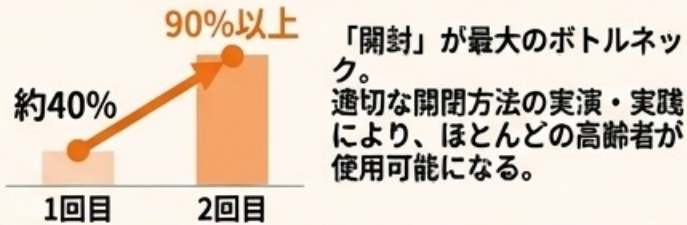
目的：高齢者のユーザビリティと利用意欲を解明し、CR包装の普及に寄与すること。

## 調査手法

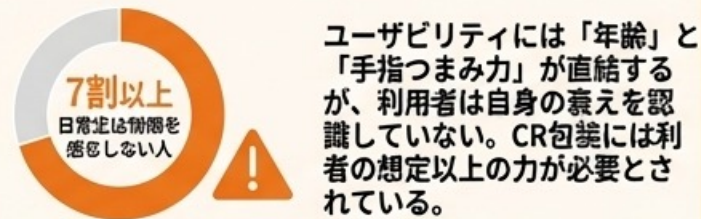
- 🎯 対象：50歳以上の成人
- 👉 測定：手指つまみ力（ベットボトル開栓を活用）
- ✅ 実技：CR包装の開閉テスト（1回目：説明なし ⇒ 2回目：実演・指導後）
- 📄 調査：難易度評価、利用意欲などのアンケート

## 調査から得られた3つのファインディングス

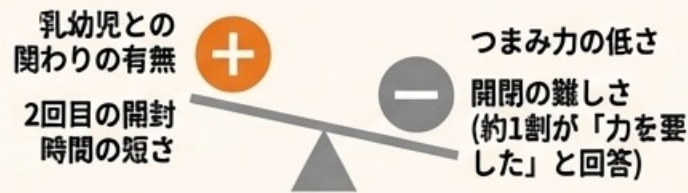
### ① 実演指導による劇的な成功率向上



### ② 「実際の手力」と「自己認識」のギャップ



### ③ 利用意欲を左右する要因



## 結論と今後の方向性

サマリー：高齢者へのCR包装普及には、「ユーザビリティの壁」を越えるための理的アプローチと教育的アプローチの両方が不可欠である。

## 普及に向けた4つの重要ファクター

- 1 年齢・つまみ力への配慮  
衰えを自覚していない層でも開けやすいユニバーサルな力学設計の探求。
- 2 実演・実践プロセス  
処方時や購入時における、実演を交えた適切な開け方の説明機会の創出。
- 3 乳幼児接点の活用  
孫などの「乳幼児と関わる層」の保護モチベーションを活用した利用促進。
- 4 開封体験の改善  
「再開」よりもハードルが高い「開封」アクションの難易度緩和。